



1999.7
第26号

大学婦人協会東京支部

- あなたの創る全国セミナー (1P)
- 記念講演「主役交代の時代」坂本春生氏 (3P)
- 1999年度東京支部の課題 (4P)

女性のエンパワーメント

—あなたの創る全国セミナー—

JAUW 副会長・企画委員長 杉森長子

女性のエンパワーメントは昨年に引き続き全国セミナーの大テーマです。ご存じの通り、エンパワーメントは男女共同参画社会の形成には不可欠の要件です。私たちの日本は、今、男女共同参画社会形成過程にあり、私たちはその確立を目指して、日々努力しています。

当大学婦人協会の長年にわたる活動の中でも、全会員の「エンパワーメント」に直接繋がる活動の極みは、何といつても、**全国セミナー**ではないでしょうか。会員の自発的な研究や調査活動の発表の場、また相互に啓発し合う場として、**全国セミナー**は優れて有意義な存在です。

会員の総意のもとにされるセミナーでの決議文は、文部省や労働省はじめ国の関係省庁や全国の自治体に直接会員が持参しております。このようにして活動の成果を政策決定機関に伝え、広く一般社会に公開し、会員の活動成果を社会的に効果あるものとする努力が続けられています。このような意味で、**全国セミナー**は私たちのエンパワーメントとともに

日本女性一般のエンパワーメントに直結していると言えましょう。

さらに本年度は国際的な特徴をもつ全国セミナーの開催となります。

アジアの女性たちをも視野にとりこみ、エンパワーメントについて様々な分野にわたり研究・調査をし、議論を重ね、よりよい解決策を探求しようということになりました。

IFUWに加入しているアジア諸国がUWA（アジア大学婦人連盟）

を結成し、三年毎のIFUW国際会議の中間年に総会を開催しています。

UWAには日本のほか次の十カ国が加盟しています。バングラデシュ、

ホンコン、インド、韓国、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、シンガポール、タイ。

昨年、グラーツで開催されたIFUW国際会議の折にUWAの当番を

インドから引き継いだのが、私たちでした。今年は、日本が当番国として、UWA総会を開きます。今秋開催予定の全国セミナーは、同時にUWAを兼ねることになります。

アジアの参加者を迎える本年度は、東京支部の皆様には、様々な協力いただきたいとお願ひいたします。

本年度はセミナーの形態についても、新たな試みがなされます。皆様

の研究成果発表や討論に十分な時間を持つよう、研究発表一件につき二〇分としました。発表はテーマ毎にセッションに分類して行います。

従来、討論は分科会で行っていましたが、本年度はセッションでの研究発表後にまとめて行います。発表件数によっては同時間帯に複数のセッションが開かれます。現在予定しているセッションは次の通りです。

教育、労働、健康、福祉、暴力、環境・開発、政策決定への参画、その他。研究・調査発表でも東京支部の皆様参加を強く期待しています。

またアジアの参加者の他にオーストラリアとニュージーランドからも参加が予定されています。国際色あるセミナーになりますが、同時通訳は基調講演やシンポジウムに限られています。セッションその他の場では、「通訳ボランティア」が活躍します。東京支部の皆様には「通訳ボランティア」としてのご協力にも大きな期待を持っておりま

す。今秋の全国セミナーでは、私たちの日常の努力の成果を発揮して、アジアや太平洋の隣人とともに「女性のエンパワーメント」に努め、二十一世紀を男女共同参画社会実現の世紀とするよう連帯を強めましょう。

東京支部総会報告

書記 中山律子

一九九九年東京支部総会は、四月二十四日(土)、虎ノ門の国立教育会館で開催された。

支部会員総数五四二名中、出席者数五十六名、有効委任状二五六通で総会は成立した。

高井支部長の挨拶に続き、JAU W山本会長が、本部の各委員会活動の活性化と、会員増加のためにも小さな学習グループを作り魅力ある活動をしていきたいので、東京支部会員の協力を得たいと挨拶をされた。

次いで、一九九八年度の事業報告、決算報告及び会計監査報告が行われた後、一九九九年事業報告案、予算案が示され、承認された。

次に、加藤副会長から、十月のUWA総会についての説明があり、続いてJAUWの各委員長が活動内容の説明に立ち理解と協力を求めた。議事は滞りなく進められ、総会は終了した。

記念講演は男女共同参画社会の確立を目指すにふさわしく、現在西武百貨店副社長として活躍の、坂本春生氏にお願いした。

1998年度大学婦人協会東京支部決算報告書

1999年度予算

1999/4/1-2000/3/31

(単位:円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差額	備考	予算額	備考
I 会費収入	1,500,000	1,476,000	-24,000	49211	1,500,000	500口
II 基本財産利息収入	30,000	27,598	-2,402		30,000	
III 運用財産利息収入	1,000	1,394	394		1,000	
IV 寄付収入	350,000	362,800	12,800	ハザー、寄付	350,000	ハザー、寄付
V 雑収入	23,000	23,400	400	入会還付金、賛助会員還付金、他	18,000	入会還付金、賛助会員還付金
当期収入合計	1,904,000	1,891,192	-12,808		1,899,000	
前期繰越金	982,405	982,405	0		1,022,178	
収入合計	2,886,405	2,873,597	-12,808		2,921,178	

支出の部

科目	予算額	決算額	差額	備考	予算額	備考
I 管理費	1,060,000	941,328	-118,672		1,040,000	
(1) 備品費	20,000	2,850	-17,150	印鑑	20,000	
(2) 消耗品費	120,000	80,661	-39,339	コピー代、封筒、他	100,000	コピー代、封筒、他
(3) 印刷製本費	50,000	63,548	13,548	支部お知らせ、他	50,000	支部お知らせ、他
(4) 通信費	320,000	285,569	-34,431	支部お知らせ・ともしび・本部会報	320,000	支部お知らせ・ともしび・本部会報
(5) 文通費	70,000	60,000	-10,000		70,000	
(6) 事務所費	120,000	120,000	0	本部へ分担金	120,000	本部へ分担金
(7) 事務手当	360,000	328,400	-31,600	事務員給料一部負担、他	360,000	事務員給料一部負担、他
II 運営費	150,000	125,706	-24,294		150,000	
(1) 総会費	90,000	69,252	-20,748	会場費、マイク代、菓子代	90,000	会場費、マイク代、菓子代
(2) 委員会費	60,000	56,454	-3,546		60,000	
III 事業費	700,000	584,385	-115,615		700,000	
(1) 一般事業費	600,000	484,385	-115,615	ともしび(2回)講演会・本部へ寄付	600,000	ともしび(2回)、講演会、他
(2) 国内奨学金	100,000	100,000	0	国内奨学金指定寄付	100,000	国内奨学金指定寄付
IV 雑費	20,000	0	-20,000		20,000	
V 子備費	20,000	0	-20,000		40,000	
VI 基本金積立	200,000	200,000	0	貸付信託	200,000	貸付信託
当期支出合計	2,150,000	1,851,419	-298,581		2,150,000	
次期繰越金	736,405	1,022,178	285,773		771,178	
支出合計	2,886,405	2,873,597	-12,808		2,921,178	

1999年3月31日現在

基本金財政状況: 貸付信託 ¥3,960,000……三井信託銀行新宿西口支店

運用財政状況: 繰越金 ¥1,022,178 普通預金 ¥1,020,732……三井信託銀行新宿西口支店

現金 ¥1,446

会計 木村 和子 山崎 邦子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、間違いのないことを証明いたします。

1999年4月16日

会計監査 松沢 美仁子 比留間 淑乃

記念講演 (99・4・24)

「主役交代の時代」 「個人が主役の時代」

講師 坂本春生氏



不況という言葉が流行し始めて、もう何年になるだろうか。長く苦しい時代であり、いつ終わるとも分らない。しかし坂本春生さんの講演を聞いて、暗い雲間から一筋の明るい光が射してくるのが感じられた。

日本社会の既存の「わく組み」を破壊して爆発的なエネルギーを持つ「個人」が主役となる時代が訪れた時こそ、日本は経済の構造改革が行われ、本当の意味での先進国として再生できる、と説かれたのである。

坂本さんは四十九才で官界から経済界に「華麗なる転身」を遂げられ、現在は経済団体の中心的メンバーの一人として活躍しておられる。女性としてパイオニアの役割を常に担ってこられた方である。この立場から見た日本経済の現状とこれからの女性のあるべき姿について話された。

日本は今「生活者が主役」の消費市場である。厳しい目を持った消費者が世界中どこへでも出かけて行き、また日本に居ながらにして世界中の品物を選べるのである。ここでは個人が主役であり、個人のテイストに合った品物にしか興味を持たれず、「安くてもいい物を買うのは一種の教養」という価値基準さえも生じているのである。こういった生活者の意識の動向を常に注意深く観察することが必須なのである。

女性の生き方も当然激変してきた。坂本さん自身も職業人、家庭人としての二つの役割を見事にやり遂げてこられたが、これからの女性に対しては職業人、社会人（ボランティア等）として社会に参画する）家庭人として三面体の人生を、余裕を持って生きて欲しいと提言された。

現在指導的立場に居る男性は、職業人としての一面体の人生しか経験していない人がほとんどである。彼らは女性に対して、家庭人としての一面体の役割のみを期待しがちである。坂本さんは機会あるごとに、この意識のわく組みを外して、女性に「個人」としてすべてのチャンスを与えるべきであり、特別の価値観を押しつけるべきではない、と訴えて

こられた。

最後に、人生八十年という時代に、美しく齢を重ねることがどれ程大切かということについて、ご自身の経験をユーモラスに話された。何に対しても好奇心を失わず、感動する心を持って健康で若々しく生きてゆくためには、頭・心・体を常に柔軟に保たなければならぬ。日舞、ソールダンスに励み、身近なものを教材として学び、そして外観にも気を配りある程度のオシャレをすることが、ビューティフル・エイジングの秘けつであると話されたのである。男まさりの行動力と優しいところ配りを合わせ持った方だった。

(有澤 公)

講演 (98・3・10)

「ワインのワインでない話」

講師 本間千枝子氏



エッセイ「アメリカの食卓」でサントリー文芸賞を受賞された、本間千枝子氏の講演を聴く機会を得た。

氏はワインを実在的、歴史的に語られ、ワインをテーマに、人と場所

と時の糸を繰り一幅のタペストリーを織り上げて見せてくださった。

キプロスに魅了されたパッカスの話から、アルザスのワイナリーでの、瓶に閉じ込められた自由の女神との出会いに話が展開した。そして、カリフォルニアのワインの父ハラディの繁栄と挫折から一世紀を経た今、ジンファンデルという銘酒として生きていると紹介された。

帰途、シャトウ・カラスやアルザス産のスパークリングワインを求めて酒店に寄ったが手に入らなかった。岩石混じりの痩せた土地にどうにか根を張り枝を伸ばすブドウが、美味しいワインを生むのではとの説が印象的だった。美味しいものは簡単に手に入らないようだ。講師の魅力に酔った一刻だった。(福田満代)



一九九九年東京支部の課題

東京支部長 高井敏子

昨春、東京支部委員の約半数のメンバーが大幅に入れ替わり、年齢的にも若い方たちが加わり新年度が発足いたしました。以来一年間力を合わせて仕事をし、お互いに気心も分り忌憚のない意見も交換できるようになり嬉しく思っています。

さて、一九九九年度をどのような方針で過ごそうかと本年度初の委員会で話し合い、J A U Wの会員であることの魅力がどこにあるのかという点が問題になりました。

さし当ってこれというチャームポイントが見つからないということになり、それでは新入会員をふやしたくてもむずかしいのでしたらよいかを検討した結果、会員の特典として、年会費を納入している会員の、支部の諸行事への参加費を無料（ただし特別な企画は除く）にしてやってみることにしました。会員増強の一助となればと思っております。それには魅力ある講演者をお願いしなければなりません。皆様にも広く情報を頂きたく、お願い申しあげます。

さらに、私どもの関心はやはり環

境問題にもありますので、六月には都の清掃施設の見学に行き、それにつなげる形で七月二十五日に、幕張メッセ国際会議場で行われる「地球環境に果たす女性の役割」の公開シンポジウムにも参加しようと呼びかけているところです。

地球環境問題も、女性のエンパワーメントをもって考え行動してゆくことが大切であると考えられますので、私どもの学習が二〇〇〇年度に向つての原動力になればと願っております。

一九九九年度の発足に当り、これからの一年間、東京支部会員各位のご協力ご支援をたまわりたく、よろしくお願いいたします。

公開シンポジウム「地球環境に果たす女性の役割」於幕張メッセ国際会議場 7月25日11時5分
申し込み先・ICWES-11公開シンポジウム実行委員会
TEL 03-3987-5078
FAX 03-3987-5647
参加費二千円 託児あり。

「東京都清掃施設見学」(99・6・12)

見学バスは新木場駅から、いまや世界の情報産業の中心地、臨海副都心を横目に第二海底トンネルを抜け、中央防波堤(中防)内側処分場に入る。巨大なベルトコンベアが動いているのは縦型回転破砕処理施設の中

防不燃ゴミ処理センター。フロン処理後の冷蔵庫、家具、自転車等から鉄その他を選別、資源化する。次は破砕ゴミ処理施設。分別し出された不燃ごみから危険物を除きながら、シヨベルカーで押し上げハンマーで

破砕、アルミや鉄を選別。他は焼却に回す。資源は売却され、熱カロリは電力その他として利用、焼却灰は船と車で埋立地へ運ぶ流れである。

清掃車専用の中防スカイラインを通り埋立て現場(中防外側埋立処分場)へ。デイズニールランドが二つ入るといふ進行中の埋立地である。無数のパイプはガスぬきのためのものだが、焼却処理したものと建設残土、泥などをサンドイッチ方式で積み、異臭はほとんどなく、害虫の発生もおさええる工夫がみられる。

展望台に立つ。左方に幕張メッセ、右方にアクアラインを望み、前方は新海面処分場予定地である。この新

しい護岸の構造は海水の汚染を完全に防ぐための万全の工事がなされ、護岸一メートルの建設に三千万円を要するとか。これは東京港に整備する最後の処分場なのである。漁業問題、千葉県との関係、自然破壊の限度を見た思い。

清掃局中防庁舎(全館が焼却熱エネルギーにより稼動)入口ではマスコットの智恵のふくろうめぐりんが、資源、エネルギーの循環とごみの減量を訴える姿で出むかえ、十階では中防の女神が見学者に微笑みかける。この等身大の女性像は粗大ごみの中から発見された作家名入りの彫刻であり、ごみ問題を考える一助にと、手入れされ飾られているもの。

都庁で長年、ごみ問題と格闘してきた大ベテランの説明は熱い。子孫の代までいかに長くこの処分場を使うか。行政、企業の努力、個人のごみを出さぬ工夫、待ったなしの状況と言える。

熱エネルギー活用の夢の島は南海の楽園のようで、住民の憩いの場となっている。思いっきりトロピカルな雰囲気も楽しめたが、一都民としての課題も再認識しての帰路であった。

(三浦由紀子)

サークルから

○英語講座

△英国の歴史散歩の旅△

講座に入っていない方も、ぜひご参加ください。

日程・9月2日又は3日から8日間
あるいは10日間。

行先・ロンドンとその近郊。

ローマ時代からの歴史の街ロンドン、地下鉄や二階建てバスでこまめに移動し、歴史の跡を辿ります。ツアー型の旅行とは違う、中味の濃さがあります。鉄道で中世の町 Canterbury, Windsor, Hampton Court Palace など、観光バスで Shakespeare の町 Stratford, 他に Bath, Stonehenge, Salisbury へも日帰りで行くロンドン以外の旅も予定しています。

案内役・松本節也氏(元法政大学教授、18世紀英文学、現在、都市形成の一例として「The History of London in Maps」を教材に、大学で原書講読を担当)

費用・航空運賃、ホテル(朝食)込みのロンドン・フリー利用の計算。食費、現地での足代、観覧料などを加え、8日間で30万円程度、10日間で33万円程度の見込み。

申し込み、問い合わせ・峯川まで

☎〇三三六八四一八三〇七

○第18回散歩くらぶレポート

5月11日(火)ニコライ堂↓湯島聖堂↓神田明神↓湯島天神を散策。

ニコライ堂は残念ながら土・日以外は中に入らず、日本では珍しい建築様式の建物を門の外から眺めるだけ。その替りという訳ではないが聖堂では事務局長の丹羽様のお話から、聖堂の歴史や現状のお話の後、孔子像をお祀りしてある大成殿の中や、ふつう拝見できない神農廟の奥までご案内いただき、当時の旗本の子弟や藩の秀才が、聖堂や傍の昌平黌に集い、学び思索し論じた様子を想い、充実した時を過ごした。

神田明神は15、16日が三年ぶりのお祭りとして、日本舞踊や舞台で見る華やいだ雰囲気や舞台で見る

次回は6月17日(木)、江戸川区のご好意で、定員33名の区バスで小岩の菖蒲園などの区内めぐりを企画。前評判も上々ですすでにキャンセル待ちが続出!?の様子。(5/23 峯川記)

○「源氏物語を読む会I」

一九九六年九月から始めた源氏物語も、現在「須磨の巻」を順調に読

み進んでいます。四月には、物語の舞台を訪ねて京都旅行もしました。現在会員数は三十一名です。

○新設「源氏物語を読む会II」

「源氏物語を読む会I」は、進度や会場のスペースの都合で、会員の募集を締め切りましたが、なお希望者が多いため、来年四月から新クラスを発足させたいと思います。初心者を対象に、十年の予定で原文を読みます。物語の舞台を訪ねる旅も催行の予定です。JAUWの会員増加を図るためにも、JAUW会員になることを条件に、現在会員でない方もお誘いください。

日時・二〇〇〇年四月より毎月第二
三四火曜日十時半〜十二時半
会場・未定

テキスト・原文であればいずれも可
講師・坂上栄美子(大阪女子大卒)
著書「源氏物語ひとりごと」
定員・三十名(発足時十五名未満の場合)
場合は不成立)

会費・月三千円
申し込み先・事務所又は中山律子

☎&F〇三三三三三三三六一四
(六二八)

○楽しい俳句会

札幌支部俳句同好会と紙上句会を始めました。指導は、前札幌支部長佐々木幸様(俳人協会会員「朝」同人)です。季語集に従って、一年を春夏秋冬と新年の五期に分け、一人一句を清記して五句互選します。札幌のメンバーは13名、東京は15名で、五月よりスタートしています。北国ならではの句もあり、これらが楽しみです。教室は、まだ若干のゆとりがあります。

一三三五一五〇五六

○フラワーアレンジメント同好会

七月はドライフラワーを使ってアレンジします(12日)。お問い合わせは西尾まで。☎〇四三三一九七四七(四一)



初夏の花をアレンジしました。

“声のひろば”

「何が高齢者を作るのか」

昨今、高齢化問題が色々な観点から論じられている。その中で最も危惧されているのは、高齢者の数が多くなることによつて生ずる種々の弊害である。しかし、この問題を別の面から考えることはできないだろうか。高齢になるにつれ、老化現象が顕著になることは避けることができない。しかし、老化の度合いには、個人差が生ずる。にも拘わらず、現行の定年制度や老人福祉などは、この個人差を度外視しているかのように思われる。日々の生活に張りがない、生きる目的を持たなければ老いが早まる。金銭を伴う仕事はもとより、家事、育児といった広義の意味での仕事がなくならないだろうか。早める最大の要因ではないだろうか。昔の老人たちには、家庭内での仕事の分担があり、それなりの存在感を持つことができたと思われる。核家族化等逆らうことのできない世の中の流れはあるにしても、平均寿命が八十歳を越そうとする今日、高齢者の持てる力を存分に発揮させ、高齢者を早々と老化させてしまうような

制度や考え方を見直して見る必要があるのではないだろうか。

(木村 和子)

「初孫はクローン？」

今年の三月、我が家に待望の初孫が誕生しました。結婚三年目の長女が、三五〇〇グラムの男の子を、主人の勤務先である総合病院で無事出産したのです。産科病棟の先生方や看護婦さんたちから「先生にそっくりですネ」といわれ、祖父である主人は終始ご満悦の様子でした。退院後、母子ともにしばらくは我が家に居りますので、沐浴は当然私がしなければと思ひ、何十年ぶりで不安でしたが、主人が喜んで毎日してくれてほつとしています。最近では浴槽と一緒に入れるようになり、ますます楽しい日課になっております。

名前は婿が「芳仁」と付け「まるで皇族のような名前ね」と娘と話しておりますが、主人は「医は仁術の仁ちゃんだから将来は立派な医者になるよ」と大喜びです。そういわれて見ますと、外見だけでなく中身も主人そっくりのような気がしてきまなした……。態度がやや尊大で、なかなか泣き事をいいません。きつと二

人はクローンねと話しております。我が家の家族の絆は、この初孫を中心に、さらに強固になった気がする。今日この頃です。

(加藤百合子)

「源氏・都・仏・桜」

源氏物語を読み始める際に「約十年の予定で読んでいき、三回ゆかりの地を訪れます」と説明を受けていました。いよいよ三年近くなり心待ちにしていた旅行が実現することになりました。桜の頃の京都を想像するだけでも素晴らしい上に、様々な資料や説明を受け、修学旅行の生徒のように楽しみにして出かけました。

最初に訪れた東寺では、千年の間都の移り変わりを見てきたたくさんの仏像の、各々の表情に魅せられ、また神護寺の五大虚空蔵菩薩像の艶麗な姿に、広隆寺の有名な弥勒菩薩の美しさに見とれました。

神護寺では坂上先生と同郷のご住職より空海の話、清凉寺では若い坊様より、釈迦如来像がインドから中国、そして日本へと伝えられた話を一生懸命にしていたとき、訪れる寺々で仏様ばかりでなく、そこにお勤めしている方々とも素晴らしい出会いがありました。

京都の桜はどんな最上級の形容詞でも言い表すことができないほど、ただただ美しく、華やかで妖艶で、街で、お寺で、川沿いで、感嘆の声を上げるばかりでした。特に花の寺と呼ばれる勝持寺の、まさに桜の園とも思われる庭で西行ゆかりの桜に出会い、様々に思いをめぐらし、歴史と花と新緑を心ゆくまで楽しみました。

昼間の知的で効率の良い見学を終え、一日目は鞍馬温泉で露天風呂に入り、若手メンバー(?)は大部屋で枕を並べ、また二日目は京料理を堪能し、このアカデミックで優雅な旅行も終わりました。目と耳だけを十分使つて知的旅行をする予定でしたが、行く先々で、木の芽の佃煮、竹の子、和菓子と手荷物が一ぱいになってしまいました。食欲も負けていませんでした。

心から源氏物語を愛している坂上先生の、登場する一人一人に対する深い思いの籠った、思いがけない説明に引き込まれ、ますます源氏物語の面白さ、素晴らしさの虜になりました。

(横橋 貴子)

第42回通常総会報告

副支部長 柴崎富子



七分咲きの桜の岡山は、冷たい花の雨となりました。第42回通常総会は岡山国際ホテルを会場として、四月三日の午後より始まりました。例年通り支部長会議と評議員会の後、夕刻六時より、同ホテル別館一階瑞光の間にて懇親会が開かれました。

岡山市長も出席された懇親会は、一九七九年岡山県生まれのヤングピアニストの歓迎の演奏で始まり、モーツァルト、ショパンなどのクラシックに続いて、ヴィラ・ロボスの「ブラジルの詩より」の演奏で、心浮きたつ若さがあふれました。瀬戸内海の鯛の岩塩包み焼きは大好評で、主

催支部の配慮に感嘆しました。

四日の出席者は二二〇名(東京支部より四七名)参加支部数は二十三。開会の辞の後、逝去会員に一同黙禱をささげご冥福を祈りました。次に、山本和代会長を議長として選出。総務・各委員会・各支部の報告に対して、審議、質問などが行われました。

議事進行はおおむね順調に進行。

先ず開会の辞で、山本会長が「明日へのエネルギーをバネに女性のエンパワーメントに取り組み、二十一世紀を女性の世紀として自分たちの手で掴む努力を」と呼びかけられたのは印象的でした。

次期第43回総会は奈良で開催されます。奈良ホテルも予約済みとか。岡山支部に感謝し、総会は終了しました。

岡山支部主催

「吉備路めぐり」

四月五日、麗かな日差しのもと、二台のバスに乗り吉備路めぐりに出発、車窓の桜は満開。

前夜の夕食後のひととき、郷土歴史家・市川俊介氏より、古代吉備王国は大和に劣らぬ勢力と高い文化を誇った国、吉備路はその中心で昔を偲ばせる史跡が散在する等々の講演



をお聴きした。氏は吉備路にも同行し、バス二台を交互にお話しくださる。

バスは吉備津神社へ、仁徳期創建旧山陽道屈指の大社で吉備津造の社殿は国宝、比翼の破風が美しい。市川俊介氏がお願いださり特別に本殿外陣に入れていただき、一同感激でした。御釜殿では鳴釜の神事を行っていただき、大きく響く釜の音に包まれました。次に訪れた備中高松城跡は平坦な田圃の中、こんな所に居城が。宝福寺で精進料理を頂き小休止。宝福寺は雪舟に縁のある臨済宗の古刹。朱塗の三重塔・仏殿が松林に映え三々五々カメラにおさまりました。

午後備中国分寺へ。高く聳える五重塔、蓮華畑越しに見る国分寺の遠望は、正に一幅の絵のようでした。最後、造山古墳へ。前方後円墳の大きくゆつたりとした姿は往時を偲ば

せるものがありました。美しい自然と史跡の数々、素晴らしい一日でした。(縄田真紀子)

「シスター加藤を囲んで」(99.5.12)



フィリピンでは人口の75パーセントが貧困者で、段ボールで間仕切られた小

屋に住み、仕事もなく、食物も米だけという悲惨な生活を送っている。シスター加藤は愛徳カルメル会の修道女として十年前からフィリピンに派遣され、貧しい女性たちの経済的自立を助けるため、刺繍を教え手芸品を作って売り、現金収入が得られるよう地道な援助活動を続けている。

母親が栄養失調のため母乳が出ない、衛生状況が悪いため伝染病も多く子供の死亡率が高い、文房具が買えないため小学校も満足に行けない、教育を受けていないので計算もできず、低賃金の仕事にしかつけないなど、秩序も希望もないフィリピンの厳しい現実を淡々と話されるシスター加藤。その崇高な使命感と人間を信じる温かさに感動しました。

(小池朋子)

事業報告・予定

- 4・24 東京支部総会
於国立教育会館
記念講演「主役交代の時代」
講師 経済同友会副幹事 坂本春生氏
- 5・12 講演会「フィリピンスラムの現状について」愛徳カ
ルメル会 シスター加藤
- 6・12 見学会・東京都清掃施設
―新東京丸に乗って―
7・1 ともしび 第26号発行

- 7・7 勉強会「介護保険制度」
於津田会館 (財務主催)
- 7・11 ガレージセル
於事務所 (財務主催)
- 10・15 JAUW全国セミナー及び
16 UWA総会 (本部主催)
17 於国立婦人教育会館
- 11月中旬バスツアー (財務主催)
秩父・長瀨方面
- 1・8 新春のつどい (本部主催)
―国内奨学金贈呈式―
(本部と支部の共催)

7月以降の事業は、具体的に決まり次第、ご案内いたします。

'99 JAUW全国セミナーと
UWA総会のお知らせ

・10月15、16、17日の三日間
・国立婦人教育会館(東武東上線の武蔵嵐山下車)にて。
東京支部の皆さんも、多数ご参加ください。

◇「東京都清掃施設見学」その2は、6月30日、新東京丸に乗って行われました。
11月に、環境問題についての講演会を予定しています。

◇「フィリピンの手芸品」
「シスター加藤を囲んで」で紹介された手芸品(カード、ポーチ、ブックカバーなど)は事務所に取り扱っていますので、お求めください。

◇寄贈図書紹介
鈴木真砂女句集「紫木蓮」
第三十三回蛇笏賞受賞(平成十一年度)
角川書店発行
寄贈者 柴崎 富子氏

◇お願い
○'99年度会費、未納の方はなるべくお早目に。
(東京支部会計)

○使用済みの、切手、テレフォンカード類をお送りください。年末にまとめて、中野盲人自立センターに届けています。

○東京支部の活動について、ご意見、ご感想をお寄せください。取り組んでほしいテーマとか、聴いてみたい講演(講師)などお知らせください。時間をかけて実現していきたいと思っています。
(東京支部委員会)

〔編集部から〕
声のひろば「いかがですか。表記上の訂正のほかは、ほぼ原文のまま掲載しています。第27号にも、たくさんさんの投稿をお待ちしています。

内容は自由。皆様の「実感」を、お寄せください。四百字程度で。
送り先・川崎市宮前区土橋三十一―七
松本佳子 (☎044-852-164
五六)



編集後記

梅雨の晴れ間の気持ちの良い一日、タオルを袖いっぱいに干して、大きく深呼吸。咲き初めた夏の花に水をたっぷりあげて、ほんわりと幸せになりました。鬱陶しい時期ですが、皆様いかがおすごしですか。

子の、社会のレポートの課題は憲法。四苦八苦する姿を見かねて一緒に勉強です。第九条「戦争放棄」について調べていくうちに、あらためて平和の大切さを考えさせられます。コソボ問題の、ほんとうの意味での終結を、望みずにはいられません。
梅雨模様はまだ続きそう。紫陽花の色を楽しみ、傘に似合う服を選んで楽しく過ごしたいものです。(I)
少子化が進み過保護の子供が増えている一方で、幼児虐待や育児放棄の母親も多い。社会全体で子育てを支援していくことが大切だと思ふ。

(K)

ともしび 二六号 発行日 一九九九年七月一日 発行 社団法人大学婦人協会東京支部

〒100-0001 新宿区左門町十一番六―一〇一
Tel 03-3358-1188 印刷 タナカ印刷
Fax 03-3358-1189